

事業所名		児童デイ ゆめ木風2		公表日		令和 8 年 3 月 15 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		パーテーションやフロアマットを用いてスペースの使い方を工夫している。 学習や遊びなど活動が十分に出来るスペースがある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		送迎を含めて支援が行き届くよう配置されている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	トイレには手すり設置。視覚的な表示を用いて子どもたちにわかりやすい空間を作っている。 学習と遊びスペースを区切ることで視覚的にわかりやすい環境を整えている。	未就学児は視野がまだ狭く、広いフロアで走り回る中で転倒や机への衝突が懸念されている。ガラス製の机やその角への接触など怪我・事故につながる箇所は常に改善を考えていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		清掃、消毒は常に行っている。清潔な空間を保つよう心がけている。毎日清掃している。 玩具や道具・教材も子どもたちに合わせて用意されている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	個別部屋はないがパーテーションを使って工夫をしている。 パーテーションを用いた安心できる環境作り、周囲への配慮を心がけている。	個別部屋がない為、児童にクールダウンが必要な場合や、個別で話をする時などはパーテーションや職員用バックヤード等を利用して簡易的な個別空間を用意。対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		フロア会議、毎日の朝礼を通して全体での情報共有を図っている。 朝礼の中でも職員間で声をかけ合っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎年実施している。 保護者にご協力いただき、内容の共有や改善について話し合っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		朝礼、フロア会議で常に業務改善を考えている。 積極的に意見交換ができていると思う。 管理者との個人面談など適時行われている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	外部評価は行われていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		職員のスキルアップを目的とした勉強会を行っている。 資質向上の為の勉強会が行われている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		事業所に適したプログラムを作成している。 公表されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		アセスメントの支援内容などしっかりと情報共有を行った上でひとりひとりに合った計画を立てている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		職員同士での話し合い、共通理解の基に児童にとつての最善の支援を検討している。 共通理解を深めながら何が一番最善であるかを話し合っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		職員間で共有され日々の経過表記入により計画に沿った支援が行われていることが確認できる。 支援経過表には支援計画も入れており随時確認できるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		支援経過表に日々の様子を記入している。 毎日記入している支援経過表をもって、振り返った支援なども行っている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		日頃から子どもの様子をよく見ておき、その子に必要な支援内容を設定できている。 モニタリングやフロア会議によって支援に必要な項目が適切に設定されている。 職員同士の情報共有の中でその子にとつての具体的な支援内容を常に設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		フロア会議で意見を出し合い、充実した活動ができるよう努めている。 当日利用の児童に合わせた支援を臨機応変に対応しながら実施している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		児童の成長や様子を観察した上でその都度工夫している。	休日は様々なプログラムを行えているが、平日のプログラムは固定化しがちなのでもっと工夫していきたい。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		子どもの日々の様子を観察しながら、それぞれに合った活動を考え組み合わせで作成している。その時の状況や子どもの様子に合わせて計画を練り直すこともある。	計画に沿った支援に加えて、その時の状況に合わせて活動を変更したり増やしたりなど検討している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎日の朝礼において、その日利用する子どもについての打ち合わせを密に行っている。共有事項や気づきなども積極的に話し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		参加できる職員での打ち合わせは行い、他の職員にも共有ノートを駆使して情報伝達を行っている。支援終了後だけでなく気づいた時に報告や相談をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		毎日記録する支援経過表を用いて検証・改善へとつなげている。問題点については常に話し合っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年に一回以上、計画を見直している。常に子どもたちにとっての最善を考えて意見を出し合い、内容を話し合っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達支援管理責任者ならびにその子の状況を理解している者が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		それぞれの関係機関と連携して支援を行う体制が整えられている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		保護者を通じて園の見学を行い、情報共有を行っている。各事業所や園との情報交換、送迎時に様子を伝えあい相互理解に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		保護者を通じて学校への挨拶などを行い、その中でも情報収集をして職員全体に共有している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7		必要に応じてアドバイスなど受け入れられるよう関係機関との連携を図っている。発達センターを見学させていただいたりしている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7		地域交流を行っていない。特に機会は設けていないが、公園などで出会う子どもたちと関わることはある。	現状機会がないが、交流できる機会を作りたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		連絡帳や送迎時など、その都度状況を伝えて共通理解に努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	年に一度、保護者会を開き情報共有を行っている。ご家族向けの研修などは行っていない。	保護者会にて家族同士の交流や育児へのアドバイス、情報共有は行っているが、家族参加型研修は行っていない。ご家族より要望やニーズがあれば検討していく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		児童との契約、利用開始前にしっかりと説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		モニタリングで聞き取りを行い、子どもやご家族の意思を尊重した上で作成している。意向をふまえた最善の内容を考えている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		保護者への説明を正しく伝えたと同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		家族からの相談については常にその気持ちに寄り添って応じている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		年に一度の保護者会開催により交流の場を設けている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		相談、申し入れについては迅速な対応を心がけている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		月に一回ゆめ通信を配布。活動報告や翌月予定を周知している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		取り扱いには十分気をつけている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		日々の支援の中で意思の疎通及び信頼関係が築けるように努めている。わかりやすく丁寧な伝え方を心がけている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		地域との交流は行えていない。可能であれば交流を深めたい。	機会があれば地域交流を含めた運営を検討したい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各種マニュアルの周知、定期的な訓練を実施している。毎月の訓練とゆめ通信で周知している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		策定している。それに伴った避難訓練、備蓄管理も徹底している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		服薬調査票にて記載してもらい、確認の徹底なども行っている。保護者とのやりとりの中で確認もしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		アレルギー調査票を提出してもらい、確認の徹底を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		年間計画を踏まえて避難訓練や救命処置に関する研修を行っている。安全管理はしっかりされていると思う。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		毎月配布しているゆめ通信に記載して周知を行っている。保護者会でも周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットは日々提出している。提出されたヒヤリハットは職員全員が周知できるようにしている。	ヒヤリハットの振り返りや職員全体への共有をより強固にして事故防止に努めたい。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止研修を行っている。虐待防止委員会を年2回開催。研修を行い、自身の言動や行動を振り返る機会がある。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。			身体拘束に関しての研修は行っているが該当する児童がいない。	これまで実行しなければいけなかった事はないが必要な場合は説明、了承を得た上で行う。	